

## ■ 編集委員

池淵 研二\* (委員長)

赤塚 俊隆\* 伊崎 誠一\* 小山 勇\* 名越 澄子\* 仁科 正実 町田 早苗 松下 祥\*  
渡辺 修一\* Chad L Godfrey (\*Associate Editor 兼任, 五十音順)

## ■ Associate Editor

池田 正明 太田 敏男 永井 正規 (五十音順)

## ■ 編集後記

ちょうど記念すべき節目となる第10回学内グラント受賞者成果発表会が終わったところで編集後記を書き始めています。大学から年間総額2000万円の研究助成が行われ、その成果を公開で報告していただく報告会が年に2回開催されています。今回も素晴らしい研究成果の発表が5つありました。抗原を提示した樹状細胞を癌免疫療法に応用する話題、腫瘍の低酸素状態・血管構築・グルコース消費量を画像描出できる新しい画像検査の話題、ヒストン遺伝子の変異が腫瘍の悪性度の決め手となる話題、新しい消化管由来の生理活性物質が膵臓β細胞増殖とインスリン産生率を調節するという大発見の話題、骨と神経が相互に再生・再構築を補強しあう共同作業の話題。会場は静まりかえり発表に聞き入っていました。発表の終わった後は聴衆からは自然に喝采の拍手が出てきます。質疑応答では熱心な質問がポンポン飛び出し、今回は別所学長からも研究者の立場から建設的なアドバイスがいくつも提案されました。

さていつも残念に思うことは、学内でこれほど素晴らしい研究成果が得られていることを知るためには申し分のないこの報告会の場に参加者が少ないことです。200人以上は参加できる会場を準備し、日高にも川越にもテレビ中継して参加していただけるようにしていますが、常に参加者は3キャンパスで40名から60名程度にとどまっています。司会が川越、日高の参加者に質問の先を向けても、残念ながら会場からは閑散とした雰囲気伝わってくるばかりです。閉会の辞のあと、主催者側としては残念感がどっとでてきてしまいます。このギャップはいつも埋まりません。

嬉しいことに、今回も発表後に発表者同士でお互いの研究方法のディスカッション、相互に共同研究をしませんかという会話がありました。また大学院生が司会を務めてくれ、大学院生が勇気を持って質問に立つという場面もできました。いろいろ工夫をする予定ですが、学内グラント受賞者成果発表会への参加者が増え、学内で素晴らしい研究が行われていることを多くの参加者が知り、活発な共同研究につながるトリガーになるべく、報告会の発展を願っている次第です。

2014年度は研究倫理体制を強化すべき大きな話題があり研究者にとって忘れられない年となってしまいました。埼玉医科大学雑誌規定第12条として不正行為、研究費の不正使用に対する対応条項を追加しました。研究倫理に則った研究を遂行し、是非成果をご投稿下さい。

2015は昨年2月のような大雪に見舞われず、蠟梅、紅梅、白梅と開花が続き、沈丁花の開花も近づいてきます。新入生を迎える良い季節になってきました。

(池淵 研二)

## 埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第41巻 第2号

編集責任者

池淵 研二

平成27年3月15日 印刷

平成27年3月31日 発行

発行所

埼玉医科大学 医学会

350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38

電話 049(276)2102/2030 (直通) FAX 049(276)1964 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp

郵便振替 00540-6-19727

制作

株式会社アテネデザイン

東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>